

支援情報等のお知らせ

- 1) 子ども・若者支援協議会からのお知らせ
 - ① 「県・市町村青少年相談担当職員研修会」実施要項を決定
 - ② 上毛新聞視点 学びの場の可能性～幸せな「自分の居場所」～
- 2) 自立支援に関するイベント等の情報
 - ① ひきこもり支援「ひきこもり当事者家族の立場からの体験談」
 - ② 自殺予防講演会「自分のいのちと心を守るには」
 - ③ 群馬県私立通信制高校等連絡協議会「設立記念フォーラム」
 - ④ ひきこもり家族教室「本人らしさを支える関わり（講話）」
 - ⑤ ひきこもり支援講演会「家族がひきこもりにどう対応するか」
- 3) 民間活動団体等の紹介
 - ① NPO法人 エンパワメントぐんま

1 「県・市町村青少年相談担当職員研修会」実施要項を決定

増え続ける中学生不登校の中には、進学可能な高校が見えて来ないことへの不安から、卒業後の進路に悩む親子が数多くいます。

高校生活の不安やトラブル等を抱えて精神的に不安定な状態に陥った生徒の中には、ひきこもり状態が長期化して、進路変更を迫られる場合もあります。

こうした中・高校生や親御さんが抱えている不安を相談現場から報告するとともに、高校等における多様な学び方の実例を紹介しながら、「学びなおし」の支援について考えます。

【研修会】

日時：令和元年12月26日（木）13:00～

会場：群馬県公社総合ビル ホール（前橋市大渡町1-10-7）

テーマ：

『不登校・ひきこもり状態から一歩前へ進める
～ 中・高生の「学びなおし」を支援する ～』

内容 進行役 石川京子氏（NPO法人リンケージ理事長）

①対談

テーマ 「不登校生が抱える不安感と、その対応」

ゲスト みどりクリニック院長 鈴木 基司氏

②パネルディスカッション（第1部）

テーマ 「中・高の不登校生が抱えている不安」

パネリスト

県立太田女子高校 養護教諭 二渡 美典氏

さくらんぼの実る頃 代表 湯浅 やよい氏

③パネルディスカッション（第2部）

テーマ 「多様な学び方ができる高校等の実態」

パネリスト

県立前橋清陵高校 副校長 小瀧 和人氏

群馬県私立通信制高校等連絡協議会 丸山 昌利氏

定員 300人（先着順）

申込み方法など詳細は別添実施要項をご覧ください。

これまでの研修会の内容が県HPでご覧いただけます。
https://www.pref.gunma.jp/cate_list/ct00002546.html

2 上毛新聞視点 学びの場の可能性～幸せな「自分の居場所」～

館林市でフリースクールを運営する安楽岡優子さんが、上毛新聞視点（2019.8.25）に「学び場の可能性」で投稿されました。

館林市教委がフリースクールに対する「出席扱いのガイドライン」を策定したことで、各学校長が出席扱いを認める流れができたことが紹介されています。

学校や適応指導教室が合わない子が、別の学び場に出会うまでには課題が多くあるものの、学びの機会を求めている子どもたちに社会全体で応えていく必要性を訴えています。

この記事について、本人及び上毛新聞社に二次利用の許諾をいただいているので、添付資料をご活用ください。

3 9/22 ひきこもり支援「ひきこもり当事者家族の立場からの体験談」

ひきこもり当事者と家族が集い交流している「太田道草の会」では、足利市で「ひきこもりの居場所」の運営に携わっていた方を講師に招いて、当事者の家族の立場からの体験談をお聴きします。
この機会に皆さまと一緒に学び合うことができたら幸いです。

【体験談】

日時： 9月22日（日）13:30～16:00
会場： 太田市福祉会館 2F 第1会議室（太田市飯塚町1549）
演題： 「ひきこもり当事者家族の立場からの体験談」
講師： KHJ支部 NPO法人とちぎ「ベリー会」
前副理事 齊藤 悦子氏
* 足利市でひきこもり居場所の運営に携わる

参加費： 500円
対象： どなたでも参加できます。
予約は不要です。直接お越し下さい。
お問合せ「太田道草の会」
柴田昌子 080-1148-5639 0276-48-9760
飯田光子 FAX 0276-56-5404

4 9/29 自殺予防講演会「自分のいのちと心を守るには」

自殺は他人ごと？ 死にたいと思うことは変なこと？ 自分のごととして一度とらえることで、今をどう生きるのかが見えてくるかもしれません。

生きづらさを抱えたとしても、自分や他者の人生を生きる力を信じられるように、一緒に考える時間になれば幸いです。

群馬県こころの健康センターでは、小学校から大学まで12年間にわたり自殺予防教育として「いのちの授業」を行ってきた尾角光美氏を講師に招いて講演会を行います。

【自殺予防講演会】

日時：9月29日（日）14：00～16：00
会場：群馬県社会福祉総合センター 8階大ホール
（前橋市新前橋町13-12 TEL 027-255-6000）
演題：「自分のいのちと心を守るには」
講師：一般社団法人「リヴオン」代表 尾角 光美氏
定員：300人（先着順 入場無料）

席にまだ余裕があります。

<参加申込み・問合せ先>

群馬県こころの健康センター 企画研修係 TEL 027-263-1166
詳細は県HPから
https://www.pref.gunma.jp/07/p117_00013.html

5 10/6 群馬県私立通信制高校等連絡協議会「設立記念フォーラム」

群馬県私立通信制高校等連絡協議会では、さまざまな要因で学校行きづらくなっている中学生や高校生の抱えている不安に向き合い、本人に寄り添った支援の在り方を考えるためのフォーラムを開催します。

講師には、前橋市教育委員会が取り組んでいる中学生の不登校支援「オープンドアサポーター事業」、群馬県子育て・青少年課による「高校中退者等支援事業」の訪問支援業務を受託し、本人に寄り添った支援に取り組んでいる、NPO法人「カウンセリング&コミュニケーション・μ（CCM）」代表、山本泉氏にお願いしました。

【フォーラム】

日時：10月6日（日）13:00～15:30
会場：中央カレッジグループ本部 6階大講義室（100名収容）
（前橋市古市町1-49-1 新前橋駅東口徒歩2分）
※会場には駐車場がありますが、台数に限りがございます。
当日係員の誘導指示に従って駐車をお願いします。
駐車場内での事故等には、責任を負いかねます。

対象：学校・行政・福祉・医療などの子どもの支援者
不登校に悩む当事者、保護者

内容：基調報告（13：10～14：00）
「中・高生の抱える不安に向き合う現場から」
講師 山本泉氏（CCM代表）
パネルディスカッション（14：15～15：15）
コーディネーター 佐藤博之氏（前・前橋市教育長）
パネリスト 清水 洋 氏
（群馬県私立通信制高校等連絡協議会会長
クラーク記念国際高校前橋キャンパス校長）
湯浅 やよい氏（不登校の子どもの親の会
さくらんぼの実る頃 代表）
山本 泉 氏（CCM代表）
連絡協議会からのメッセージ（15：15～15：30）

参加費：無料（定員100名 先着順）

申し込み方法

gunma@wasegaku.ac.jp（わせがく高校太田キャンパス）宛に
件名「フォーラム参加希望」とご記入いただき、所属と参加

される方のお名前をご記入いただき送信してください。

9月30日締め切り 当日も席に余裕があれば、当日受付可能

*群馬県私立通信制高校等連絡協議会は9月2日に設置されました。
詳細は添付資料をご覧ください。
なお記事は上毛新聞社に二次利用の許諾をいただきました。

6 10/20 ひきこもり支援講演会「家族がひきこもりにどう対応するか」

ひきこもり経験者・家族が仲間とともに明るく前向きに歩き、学び・成長することを目的とする団体、KHJ群馬「はるかぜの会」では、ひきこもり支援講演会を開催します。

【ひきこもり支援講演会】

日時：10月20日（日）

講演会13：30～16：00

会員間の交流タイム16：00～16：30

会場：県庁昭和庁舎11会議室

演題：「家族がひきこもりにどう対応するか」
～当事者経験を踏まえて～

講師：ヒューマン・スタジオ代表兼相談員

丸山康彦氏

対象：家族および関心のある方

【パーティの会】

日時：10月20日（日）13：30～16：30

会場：県庁昭和庁舎22会議室

内容：本人・経験者の居場所活動

<申込み、お問い合わせ>

KHJ群馬はるかぜの会 TEL 080-9373-4760

harukazenokai.gunma@au.com

KHJ全国ひきこもり家族会連合会活動の詳細はHPをご覧ください。
<http://www.khj-h.com>

7 10/24 ひきこもり家族教室「ひきこもりとは」

ひきこもり支援センター（県こころの健康センター内）では、ひきこもりに悩んでいる家族を対象に家族教室を開催します。

ひきこもりに関する知識や情報、ちょっとした声かけの工夫などを学びながら、ご家族自身の気持ちにゆとりを持つ機会にしませんか。家族の気持ちの安定が、本人の気持ちにも影響を与え、本人の状態良くなるという研究結果があります。

初めての方は個別の相談を受けた後、必要に応じて家族教室にご案内しています。支援者の見学も受け入れています。希望される方は事前に連絡をお願いします。

【家族教室】

教室：10月24日（木）13:30～16:00

内容：「ひきこもりとは」

会場：県こころの健康センター 1階「いこいのサロン」

(前橋市野中町368)
申込先：ひきこもり支援センター
専用ダイヤル 027-287-1121

8 民間活動団体等の紹介 NPO法人「エンパワメントぐんま」

私たちは女性と子どもの人権を守るために、子どもへの暴力防止の活動や子育て支援等の活動を行っています。

CAP（子どもへの暴力防止）プログラムを県内の小学校や児童養護施設などで実施しています。子どもがいじめられたり、性虐待にあったり、不審者にあった時に何ができるかを、ロールプレイや話し合いを通して教えていきます。

また、小・中学生向けの安心・自信の相談でんわを16年間にわたって行ってきました。

2017年から「シングルマザー対象の子育てくつろぎカフェ」を前橋市内で行っています。シングルマザーならではの悩みを共有したり、情報交換しています。どうぞ気軽にいらしてください。

活動の詳細はHPをご覧ください。
<https://www.empowerment-gunma.org/>



次号は、2019年10月中旬を予定しています。
本メルマガを、皆様の周りの方にも周知いただければ幸いです。
また、子ども・若者支援に関する情報等の提供もお待ちしています。

メルマガを新規で受信希望する方は、「所属・氏名・メールアドレス」を『kowaka-shien@pref.gunma.lg.jp』までお送り下さい。

群馬県子ども・若者支援協議会

- ▼ 事務局 群馬県前橋市大手町1-1-1 子育て・青少年課内
- ▼ TEL 027-226-2393
- ▼ FAX 027-226-2100
- ▼ e-mail kowaka-shien@pref.gunma.lg.jp
- ▼ HP <http://smilelife.pref.gunma.jp>

令和元年度「県・市町村青少年相談担当職員研修会」実施要項

1 趣 旨

(1) テーマ

不登校・ひきこもり状態から一歩前へ進める ～ 中高生の「学びなおし」を支援する ～

(2) 設定のねらい

増え続ける中学生不登校の中には、進学可能な高校が見えて来ないことへの不安から、卒業後の進路に悩む親子が数多くいる。高校生活の不安やトラブル等を抱えて精神的に不安定な状態に陥った生徒の中には、ひきこもり状態が長期化して、進路変更を迫られる場合もある。なかには身体的な症状が顕著に現れて医療機関の受診につながるケースもある。

こうした中・高校生や親御さんが抱えている不安を相談現場から報告するとともに、高校等における多様な学び方の実例を紹介しながら、「学びなおし」の支援について考える。

2 日 時 令和元年12月26日(木) 13:00～16:40 (開場 12:00)

3 会 場 群馬県公社総合ビル ホール (前橋市大渡町 1-10-7)

4 内 容

(1) 対談(13:10～13:40)

■ テーマ 「不登校生が抱える不安感と、その対応」

■ ゲスト みどりクリニック院長 医学博士 鈴木 基司氏

聞き取り役 臨床心理士 石川 京子氏 (NPO法人リンケージ 理事長)

(2) パネルディスカッション 第1部 (13:50～15:00)

■ テーマ 「中・高の不登校生が抱えている不安」

■ コーディネーター 臨床心理士 石川 京子氏

パネリスト

ア 保健室からの報告「生徒が抱えている不安」

県立太田女子高校 養護教諭 二渡 美典氏

イ 不登校生の親が抱く「我が子の進路への不安」

不登校と向き合う親の会 さくらんぼの実る頃 代表 湯浅 やよい氏

ウ みどりクリニック院長 鈴木 基司氏

(3) パネルディスカッション 第2部 (15:20～16:30)

■ テーマ 「多様な学び方ができる高校等の実態」

■ コーディネーター 臨床心理士 石川 京子氏

パネリスト

ア 県立フレックス高校で学ぶ生徒

県立前橋清陵高校 副校長 小瀧 和人氏

イ 広域通信制高校・サポート校で学ぶ生徒

わせがく高等学校 教頭 丸山 昌利氏

ウ みどりクリニック院長 鈴木 基司氏

5 定員 300人(先着順)

- ・教員、教育関係者、青少年支援担当者、民間支援者、県・市町村職員等
- ・12月9日(月)までに、メール、FAXにて参加受付
- ・質問したい場合は、参加申込時に質問項目を提出(様式自由)

【申し込み・質問受付・問い合わせ先】

群馬県子ども未来部 子育て・青少年課 青少年育成係 担当(相馬・飯塚)

〒371-8570 前橋市大手町1-1-1

電話 027-226-2393 FAX 027-226-2100

E-mail kowaka-shien@pref.gunma.lg.jp

(別紙)

令和元年 月 日

群馬県子育て・青少年課青少年育成係あて

(FAX:027-226-2100)

(E-mail:kowaka-shien@pref.gunma.lg.jp)

令和元年度「県・市町村青少年相談担当職員研修会」

参加申込書

No.	氏名	所属・役職	備考
1			
2			
3			
4			
5			

■質問事項(任意)

所属名:

担当者名:

電話番号:

E-mail:

みんなのひろば

学びの場の可能性

視点

シリウスを設立して、1年半が過ぎた。この1年半、ものずいスピードで駆け抜けてきたように感じる。

この夏、ようやく、これまでの道を振り返っている。「学び場の可能性を感じた」。これは、館林市教育委員会のある先生の言葉である。

市教委の先生方は、シリウス訪問の折、子どもたちとともに「通信制高校を知る」「経験を経て言葉で表現する」のプログラムを体験された。

シリウスは、学校に行かない選択をしたどんな子どもたちにも最先端の学びの機会を提供したり、感性を育み合いながら語り合ったりしていきたいと考えている。だからこそ、先の言葉に、学校外の学び場の意義を確認し、うれしく思った。

後日、市教委が出席扱いのガイドラインを策定し、シリウスに通う子どもたちは「出席扱い」になった。ガイドラインをもとに、各学校長が出席扱いを認める流れである。

子どもたちや保護者の方々にとっては、学校の先生たちが今の自分を認め、応援してくれているという気持ちになるのだと思う。

ある日、館林市の須藤和臣市長がシリウスの子どもたちに声をかけてくれた。その時、ある中学生が「館林もシリウ

準備されたのではない、心からの彼女の言葉を聞き、驚きとともに、言葉にならない感覚を覚えた。彼女がこれまで抱えてきたものや深いところにある喜びに触れた気がしたのである。

初夏には、市の適応指導教



フリースクール「まなびバ!シリウス」代表

やすらおか ゆうこ 安楽岡 優子 館林市仲町

「幸せな「自分の居場所」

スのようなところを認めてくれてうれい」と感謝の意を伝えた。その場に居合わせた私は、事前に

室の先生方と相談員の皆さんにも来訪いただき、情報交換をした。必要な家庭にシリウスのことを伝えるなど、行政側からの情報提供という大きな動きにつながっている。

群馬県発行の「子どもの居場所ハンドブック」に掲載いただいたことも、大きな一歩である。

今夏、新たに「オンラインシリウス」を始め、入会児童・生徒数は7人になった。これまで30人以上の子どもたちが、相談や見学・体験、ワークショップ参加をしている。

シリウスに出会い、「自分の居場所」と思っ子が増えていく中、運営の継続が何より大事だと感じている。

しかし、目の前に立ち上がる「経費面」という壁は、あまりに高く、分厚い。「シリウスは知ってるけど、こちらはシングルマザーだから関わらせられない」という声が私の耳にも届く。

学校や適応指導教室が合わない子が、別の学び場に出合ったとしても、経済的理由で選べないというのは、どんな子どもにも教育機会を確保できているとは言えない。

全国にあるシリウスのような学び場の多くは、また国からも行政からも経済的支援がない。制度として、どうにかできないものが切に思う。

【略歴】小中学校の教員を1年間務め、アフリカ・タンザニアでのホリスティックケアや東北で復興支援教員を経験。2018年4月にシリウスを立ち上げた。熊本市出身。

カピニオン21

ホームページでも見られます。
アドレスは <http://www.jomo-news.co.jp/>

新学期のスタートに合わせ、県内の私立通信制高校や提携するサポート校計4校が2日、県私立通信制高校等連絡協議会を立ち上げた。不登校や高校中退を経験した若者らが多く在籍するが、全日制や公立通信制などと比べて認知度が低いこと

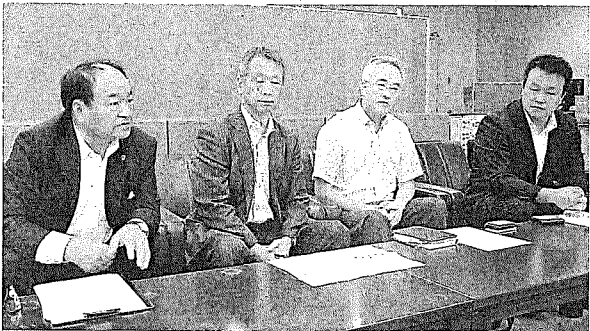
が課題となっている。生徒一人一人のペースで学びやすい特色を、連携して発信する。学校生活に悩んだり、学び直しを考えたりしている中高生や保護者に向けて「進路の選択肢を提供したい」としている。

学びやすさ 連携して発信

県内の私立通信制4高校が協議会

学びやすさ

会場で連絡協議会について説明する清水会長(左から2日、県庁)



県子ども・若者支援協議会の調査によると、広域通信制高校に本県から進学した生徒は2018年度539人で、前年度比19・8%増加。本年度はさらに増え

増加傾向の不登校 県教委は支援拡充

文部科学省の調査によると、県内で不登校となった中高生は2017年度、計2592人に上り、前年度より7%増えた。近年は増加が続いている。不登校生

徒への支援は教育現場の大きな課題で、県や市町村教委は相談体制や学習環境の充実に力を入れている。県教委が全ての公立小中学校と高校にスクールカウンセラーを配置するほか、学校外で学習や体験活動ができる「適応指導教室」を

「進路の選択肢提供」

連絡協議会を構成するのは、クラーク記念国際高校前橋校・桐生校、KTCおおぞら高等学院高崎キャンパス、第一学院高校高崎キャンパス、わせがく高校太田キャンパス・前橋キャンパス。

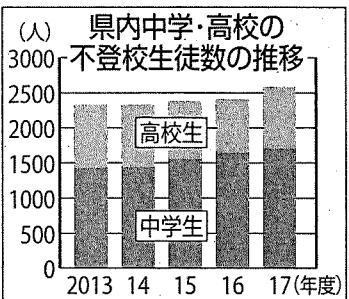
不登校の生徒の増加やライフスタイルの多様化とい

った影響で、私立通信制高に通う生徒は年々増加している。ただ、小規模校が多く、必要とする生徒らに存在をいかに伝えるかが大きな課題だ。学校単独ではなく、連携して情報発信して

いく必要があるとして連絡協議会を設立した。

今後は県内の中学校や高校にリーフレットを送るほか、シンポジウムなどを企画する。連絡協議会として相談や問い合わせに応じ、加盟する各学校の特色を紹介する。

同日、県庁で記者会見した連絡協議会の清水洋会長は「不登校を経験しても再び学んで、いろいろな資格が取れることを知ってほしい。一步を踏み出すことで可能性が広がる」と呼び掛けた。



24市町村教委が運営している。県教委は「さまざまな取り組みを通じ、一人一人の希望に沿った学びや進路選択につなげたい」としている。